

各データベースでチュートリアルを実行

NXJ チュートリアルは、その機能において制限された埋込まれたデータベースですが、Unify NXJ を紹介するには十分なものです。Unify NXJ の機能がどのように開発ニーズに応じることができるのかについてより良い理解を得るために、異なるデータベースを使用したいと思うかもしれません。このドキュメントは、Unify NXJ での使用のためにリストされた各データベースを準備するために必要なステップを提供しています。

タスク 1: データベーステーブルを定義して作成

このタスクは、以下のデータベーステーブルを定義して作成するステップを提供しています。

- IBM DB2
- IBM Informix
- MS SQL
- Oracle
- Sybase
- Unify DataServer

IBM DB2 の場合

IBM DB2 のためのチュートリアルテーブルを作成するには、テーブルを追加したい DB2 データベースで DBADM の特権を持っていないけません。テーブルを作成するステップは、以下のとおりです。

1. データベースソフトウェアにアクセスすることができるスクリプトを実行することができるローカルホストのディレクトリに、テーブル作成スクリプトをコピーします。

スクリプトファイルは以下の場所にあります。

<NXJWork>¥projects¥tutorials¥databases¥db2¥tables.sql

NXJWork ディレクトリは、Unify NXJ をインストールしたときに指定されます。デフォルトでは C:¥Unify¥NXJWork です。

2. スクリプトファイルをコピーしたディレクトリに移動します。
3. 次のように新しいスキーマを作成したいデータベースに接続するためのスクリプトの最初の行を変更します。

既に、DBADM ユーザとしてログインしている場合は、CONNECT コマンドと一緒にユーザ名とパスワードをパスします。

```
CONNECT TO TUTORIAL USER db2admin USING db2admin.
```

4. **スタート > IBM DB2 > コマンドウィンドウ** を選択します。

コマンドウィンドウが表示されます。

5. “db2 < tables.sql” (引用符無し) を入力します。
6. Enter キーを押下します。

スキーマとテーブルが作成され、サンプルデータが挿入されます。

IBM Informix の場合

IBM Informix のためのチュートリアルテーブルを作成するには、テーブルを追加したい Informix データベースで DBADM の特権を持っていないけません。テーブルを作成するステップは、以下のとおりです。

1. データベースソフトウェアにアクセスすることができるスクリプトを実行することができるローカルホストのディレクトリに、テーブル作成スクリプトをコピーします。

スクリプトファイルは以下の場所にあります。

<NXJWork>¥projects¥tutorials¥databases¥informix¥tables.sql

NXJWork ディレクトリは、Unify NXJ をインストールしたときに指定されます。デフォルトでは C:¥Unify¥NXJWork です。

2. データベース環境 (INFORMIXDIR, INFORMIXSERVER, PATH) を設定します。

INFORMIXDIR は、Informix がインストールされたディレクトリです。

INFORMIXSERVER は、接続したいサーバです。

PATH 環境変数に \$INFORMIXDIR/bin を追加します。

詳細については、Informix のドキュメントを参照してください。

3. スクリプトファイルをコピーしたディレクトリに移動します。
4. “tables.sql” スクリプトを実行します。例：

```
dbaccess - tables.sql
```

データベース、スキーマ、テーブルが作成され、サンプルデータに挿入されます。

MS SQL の場合

MS SQL のためのチュートリアルテーブルを作成するには、テーブルをデータベースに追加するために、MS SQL で DB 管理者特権を持っていなければなりません。テーブルを作成するステップは、以下のとおりです。

1. データベースソフトウェアにアクセスすることができるスクリプトを実行することができるローカルホストのディレクトリに、テーブル作成スクリプトをコピーします。

スクリプトファイルは以下の場所にあります。

```
<NXJWork>¥projects¥tutorials¥databases¥MSSQL¥tables.sql
```

NXJWork ディレクトリは、Unify NXJ をインストールしたときに指定されます。デフォルトでは C:¥Unify¥NXJWork です。

2. スクリプトファイルをコピーしたディレクトリに移動します。
3. 以下の引数で isql を実行します。

```
isql -U<MSSQLadmin user> -P<MSSQLadmin password> -i tables.sql  
-o <output file name>
```

説明

<MSSQLadmin user> は、管理ユーザの名前です。

<MSSQLadmin password> は、管理ユーザのパスワードです。

<output file name> は、スクリプト出力がリダイレクトするところの出力ファイルの**名称**です。

-
4. Enter キーを押下します。

スキーマとテーブルが作成され、サンプルデータに挿入されます。MS SQL は、以下のようなスキーマの列の名称を表示します。

```
<database_name>.<owner_name>.<object_name>
```

例えば、ROFIDA.ROFIDA.AGENT。(このマニュアルのスクリーンショットは MS SQL 画面を示していません。)

Oracle の場合

Oracle のためのチュートリアルデータベースを作成するステップは、以下のとおりです。

1. データベースソフトウェアにアクセスすることができるスクリプトを実行することができるローカルホストのディレクトリに、テーブル作成スクリプトをコピーします。

スクリプトファイルは以下の場所にあります。

```
<NXJWork>¥projects¥tutorials¥databases¥oracle¥tables_oracle.sql
```

NXJWork ディレクトリは、Unify NXJ をインストールしたときに指定されます。デフォルトでは C:¥Unify¥NXJWork です。

2. スクリプトファイルをコピーしたディレクトリに移動します。
3. DBA としてデータベースにログインして、“tables_oracle.sql” スクリプトを実行します。例：

```
ORACLE> sqlplus system/manager
```

```
SQL*Plus: Release 8.1.7.0.0 - Production on Mon Jun 17 11:29:14 2002
```

```
(c) Copyright 2000 Oracle Corporation. All rights reserved.
```

```
Connected to:
```

```
Oracle8i Enterprise Edition Release 8.1.7.0.0 - Production  
With the Partitioning option  
JServer Release 8.1.7.0.0 - Production
```

```
SQL> start tables_oracle.sql
```

```
Connected
```

Sybase の場合

Sybase のためのチュートリアルテーブルを作成するには、テーブルを追加したい Sybase データベースで DBADM の特権を持っていないければなりません。テーブルを作成するステップは、以下のとおりです。

1. データベースソフトウェアにアクセスすることができるスクリプトを実行することができるローカルホストのディレクトリに、テーブル作成スクリプトをコピーします。

スクリプトファイルは以下の場所にあります。

<NXJWork>¥~~projects~~¥~~tutorials~~¥~~databases~~¥~~sybase~~¥~~tables.sql~~

NXJWork ディレクトリは、Unify NXJ をインストールしたときに指定されます。デフォルトでは C:¥Unify¥NXJWork です。

2. スクリプトファイルをコピーしたディレクトリに移動します。
3. 以下の引数で isql を実行します。

```
isql -U<sybaseadmin user> -P<sybaseadmin password> [-S<DSQUERY>]
```

```
-i tables.sql -o<output file name>
```

説明

<sybaseadmin user> は、管理ユーザの名前です。

<sybaseadmin password> は、管理ユーザのパスワードです。

<DSQUERY> は、SYBASE の**インスタンス**です。-S オプションで渡すか、環境変数で設定するかのどちらかでできます。

<output file name> は、isql 出力がリダイレクトするところの出力ファイルの**名称**です。

4. Enter キーを押下します。

スキーマとテーブルは作成されて、サンプルデータに挿入されます。Sybase は、以下のようなスキーマの列の名称を表示します。

```
<database_name>.<owner_name>.<object_name>
```

例えば、ROFIDA.ROFIDA.AGENT です。(このマニュアルのスクリーンショットは Sybase 画面を示していません。)

Unify DataServer の場合

これらの説明は、既に作成されたデータベースを持っていると仮定します。Unify DataServer のためのチュートリアルテーブルを作成するステップは、以下のとおりです。

1. 地域による日付表示フォーマット変化に対応するために DATEFMT 環境変数の設定を変更します。例：

```
SET DATEFMT "MM/DD/YYYY"
```

2. データベースソフトウェアにアクセスすることができるスクリプトを実行することができるローカルホストのディレクトリに、テーブル作成スクリプトをコピーします。

スクリプトファイルは以下の場所にあります。

```
<NXJWork>%projects%\tutorials\databases\dataserver\tables.sql
```

NXJWork ディレクトリは、Unify NXJ をインストールしたときに指定されます。デフォルトでは C:%Unify%\NXJWork です。

3. データベース環境 (UNIFY, DBPATH, DBNAME) を設定します。

詳細については、Unify DataServer のドキュメントを参照してください。

4. スクリプトファイルをコピーしたディレクトリに移動します。
5. “tables.sql” スクリプトを実行します。例：

```
SQL tables.sql
```

スクリプトは、存在しないテーブルに関して無視することのできる警告を生成する場合があります。

タスク 2: データベース接続の定義

NXJ アプリケーションデザイナーは、フォームを作成する時に埋込み型データベースへ有効な接続を使います。そのために、フォーム上のフィールドコントロールは、これらのプロパティの設定を自動的に作成し、例えばデータベーステーブルの列に対応する正しいデータ型を持ちます。しかし、NXJ チュートリアルのレッスンで異なるデータベースを使用したくなるかもしれません。データベース接続を定義するステップは、以下のとおりです。

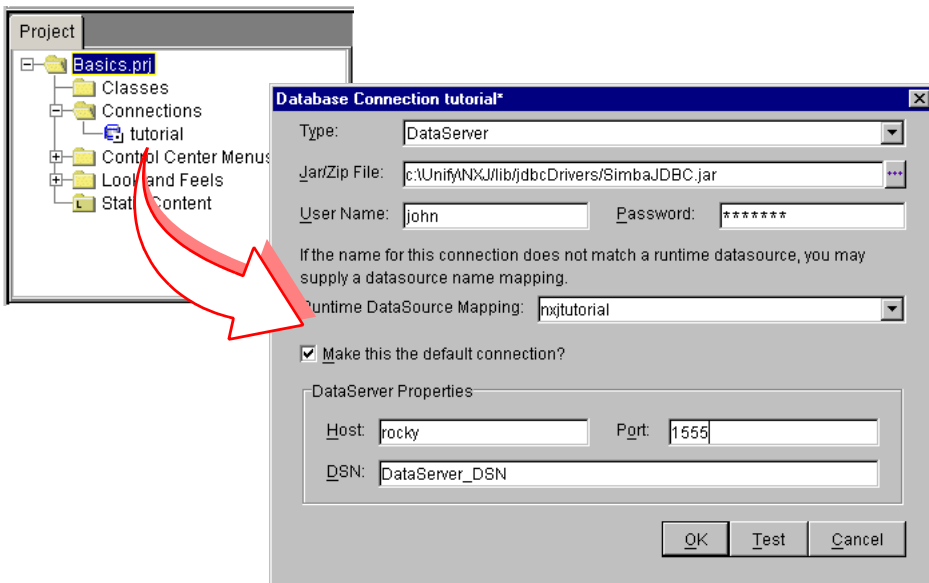
1. **ファイル > プロジェクトを開く** を選択してブラウズし、
<NXJWork>¥projects¥tutorials¥<project name>¥<file name>.prj を選択します。

NXJWork ディレクトリは、Unify NXJ をインストールしたときに指定されます。デフォルトでは C:\Unify\NXJWork です。

プロジェクトは、アプリケーションデザイナー ウィンドウで開きます。プロジェクトコンポーネントが、ブラウザパネルに表示されます。

2. ブラウザパネルで、“tutorial” をクリックして、データベースコネクション tutorial ダイアログを開きます。

‘+’ 記号をクリックして、Connections フォルダを最初に開かなければならない場合があります。“tutorial” コネクションのためのデータベースコネクションダイアログが表示されます。



3. ダイアログで以下を行います。
 - a. タイプフィールドで、チュートリアルテーブルを作成するために使用するデータベースのタイプを選択します。

-
- b. Jar/Zip ファイルフィールドで、個々のデータベース用に提供される JDBC ドライバを含んでいるファイルの名前と場所を選択します。
- これは、Unify NXJ (1 つある場合に) で含まれるドライバのバージョンにデフォルトです。
- c. ユーザ名とパスワードフィールドで、データベースにアクセスするために必要な名前とパスワードを入力します。
- これらは、ステップ f でデータベースにアクセスするために使用される認証です。
- d. 実行時に使用するデータソースフィールドで、ドロップダウンリストから “NXJTutorial” を選択します。
- リストに “NXJTutorial” がない場合、アプリケーションサーバに正確にデータソースを定義したことを確認してください。データソースを定義するための詳細については、『Unify NXJ 管理者ガイド』の付属 D 「データソース定義の作成」を参照してください。
- e. 適切なデータベースプロパティを入力して下さい。
- ホストは、データベースサーバの名前です。
- ポートは、データベースに接続するポート番号です。
- SID (Oracle)、DSN (DataServer)、Database Name (DB2) は、サーバ上に接続するデータベースの名前です。
- Informix の場合、サーバはデータベースサーバの名前で、DBName はデータベース名です。
- f. データベースアクセスをテストするために、**テスト** ボタンをクリックします。
- “接続できました” のメッセージが表示されれば、アプリケーションデザイナーはデータベースとの通信が可能となります。
- テストが失敗の場合、その理由を示したエラーメッセージが表示されます。ダイアログに必要な訂正をして下さい。
- g. メッセージを閉じるために**了解** ボタンをクリックします。
- h. データベースコネクションダイアログを終了するために **OK** ボタンをクリックします。